

兵庫県 の 地震 活動

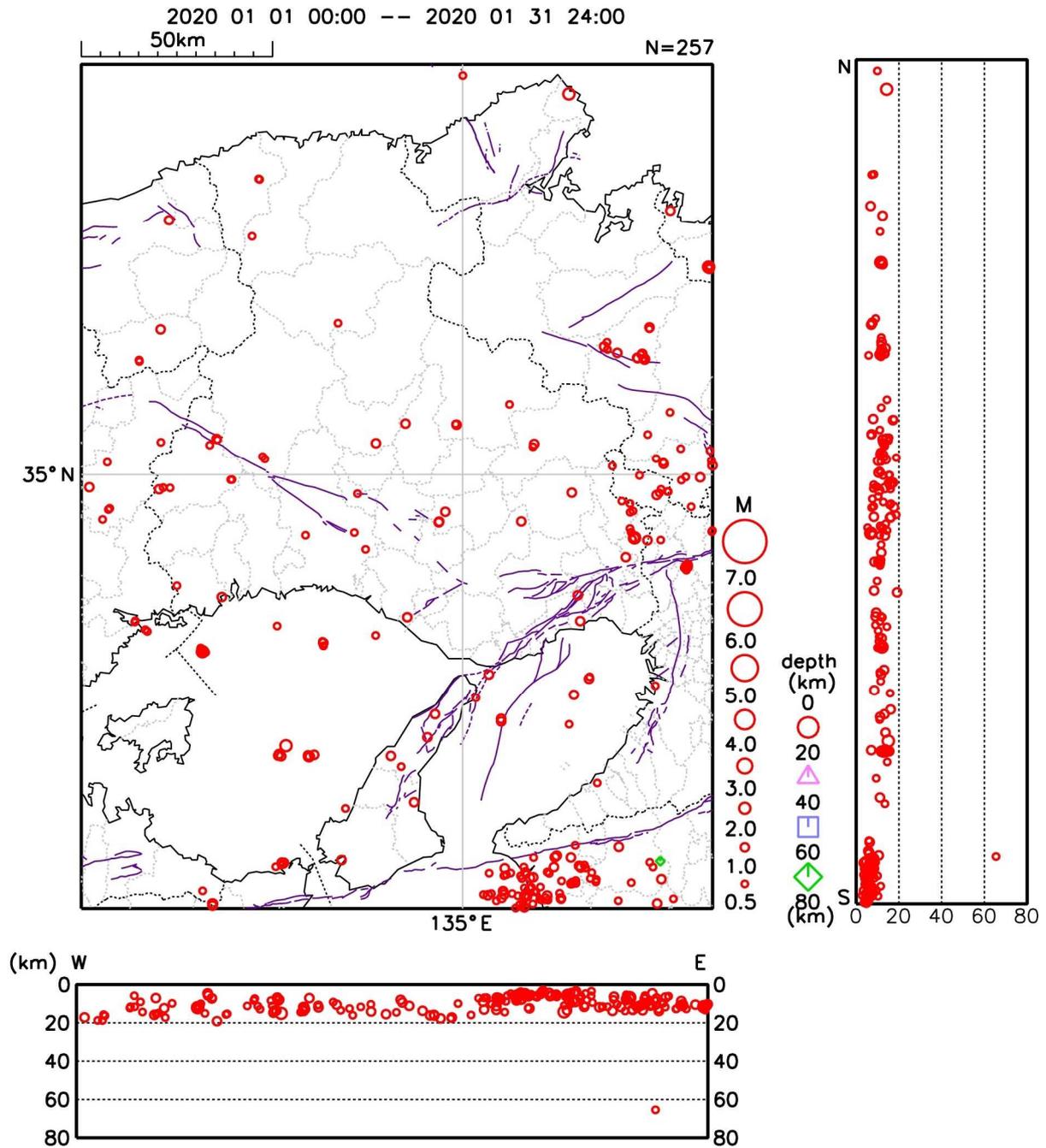
2020 年（令和 2 年） 1 月

震央分布図・断面図	1
概況	1
一口メモ	
平成 7 年（1995 年）兵庫県南部地震のその後の地震活動について	2

- * 「兵庫県の地震活動」は月 1 回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- * また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神戸地方気象台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図 右上：東から見た断面図 左下：南から見た断面図
注) 分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概況

—1月の概況—
今期間、兵庫県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

図2は、1995年から2020年にかけてのマグニチュード2以上の地震の発生状況です。発生回数に注目すると、「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」が発生した1995年直後に多くの地震が発生しその後、発生回数は徐々に減少していますが、兵庫県南部地震から25年が経過した現在でも年に数回程度は体を感じる程度の地震が発生していることが分かります。

さらに、2018年1月から2020年1月の間で、マグニチュード0.5以上の地震を追加して体を感じない地震も含めた地震活動経過図が図3（下図）ですが、これを見ても、この領域では今も多くの地震が発生しており、地震活動が継続していることが分かります。また、今後も同程度の地震活動が続くと考えられます。

日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありません。引き続き、日頃からの地震への備えを心がけてください。

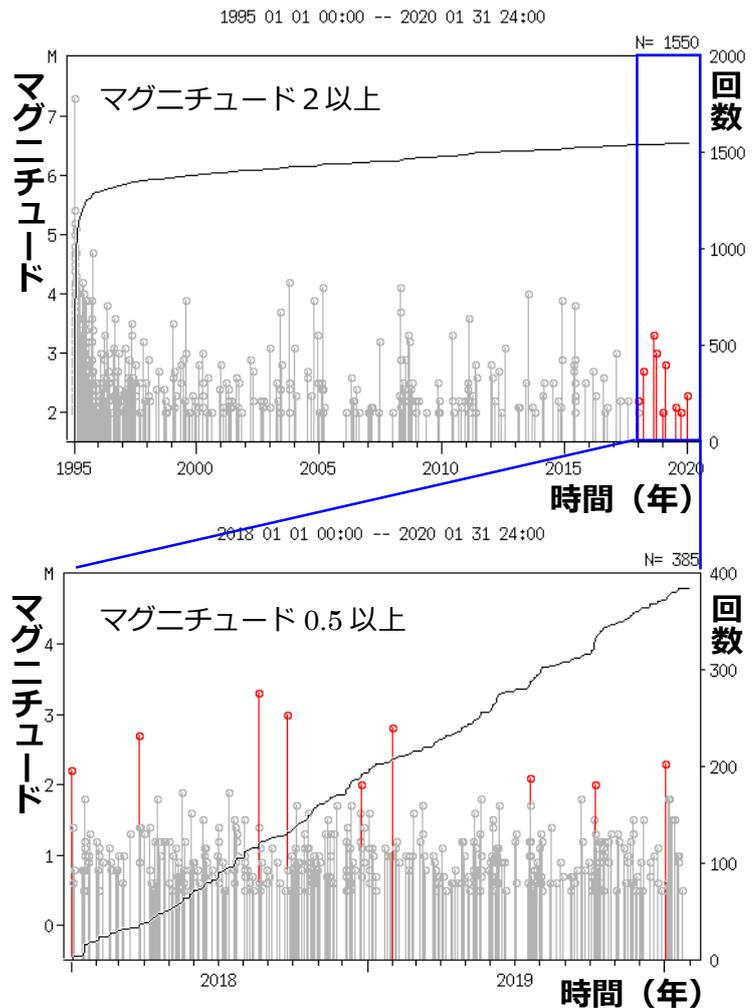


図2（上図）

1995年1月1日～2020年1月31日までに、図1で設定した赤枠領域内の深さ0～30kmで発生したマグニチュード2以上の地震（体を感じる程度の地震）の地震活動経過図※1に、同じ赤枠領域内で発生した地震（マグニチュード2以上）について作成した、回数積算グラフ※2を重ね合わせた図（2018年1月1日以降の地震を赤色で着色）

図3（下図）

図2（上図）の2018年から2020年までの部分を拡大したもの
但し、マグニチュード0.5以上の地震を含めて描画しており、マグニチュード2以上の地震を赤色で区別した

※1 「地震活動経過図」の見方

図2、図3の下端の目盛りは時間の経過を示します。図の下端から上方へ伸びる多数の線は各々「地震が起きた時間」に描かれています。線の高さは地震の「マグニチュード（数値は左端の目盛り）」に対応しています。2018年1月1日以降に発生したマグニチュード2以上の地震を赤色で描いています。

※2 「回数積算グラフ」の見方

図2、図3には、黒色の右上がりの線が描かれています。これは「地震発生回数を足し上げたもの（数値は右端の目盛り）」です。図1の「六甲・淡路島断層帯、六甲山地南縁-淡路島東岸」区間沿いの赤枠領域内で発生した地震の回数積算値が時間とともに増加している様子が分かります。